



NPO法人 北摂こども文化協会
Hokusetsu Children Culture Association

VOL
42

ハックルベリー

Hackle Berry

●北摂こども文化協会事務局
〒563-0024 池田市鉢塚3丁目4番13号
TEL:072-761-9245 FAX:072-761-9244
hokusetsukodomo@wombat.zaq.ne.jp

●北摂こども文化協会豊能事務所
〒563-0101 豊能郡豊能町吉川336-1
TEL:072-738-3435

●北摂こども文化協会西天満事務所
〒530-0047 北区西天満3-8-4朝日プラザ西天満101
TEL:06-6948-5380

Home Page URL <http://hokusetsukodomo.com/> ※検索サイトからは、「北摂こども」で検索！



2013年10月27日 すいげつハロウィンフェスティバル

もくじ

初めての言葉の冒険	2・3
中高生・青年のハローワーク～ハッピー10・10のその後	4・5
子育てエッセイ：やまGの育G日記	6
コラム☆おすすめの本／エッセイ	7
イベント・行事案内／入会案内／編集後記	8

初めての言葉の冒険



10月の初めに発覚した食品偽装問題では、予想通り出るわ出るわの芋づる式に、有名ホテルにレストラン、百貨店までも名を連ねました。高級食材を謳い高額で料理を提供する高級店や老舗。偽装食材とはつゆ知らず「さすがにおいしいね」と満足した客は「裸の王様」だったのでしょいか。

当たり前のことですが嘘はいけません。でもちょっと考えます。人生長く生きていますが、私自身嘘をついたことが全くない聖人君子だったかといえはそうではありません。ずいぶん嘘をついてきたように思います。小学校の頃、家にピアノなんてないのに「家の奥にしまっている」と見栄を張り、学芸会でオルガンを弾くことになって大苦戦をしたこと。5年生でおねしょをして「風呂場でころんだ」と言い訳したこと。高校生の時、ありもしない教材費を親からだまし取ったこと等々。

「うそつきは泥棒の始まり」と言います。しかし数えきれないほどの嘘をついた私ですが泥棒になりませんでした。それより嘘をついた自分を今でも切なく思いだし、過去を消しゴムで消したいほど後悔しています。自分を守るためについた嘘が、実は他人を傷つけていたことに気が付いた時、倍返しで自分の心が傷つく経験もしました。そんな自分を思い出したとき、私はだれにも優しくなります。謙虚にもなるのです。自分の弱さを知るからでしょうか。あるいは、「きっと他の人も自分と同じように後悔し苦しんでいるかもしれない。」と同情というか共感というか、不思議な人間愛が生まれるのでしょうか。

嘘をついた記憶を通して他人に寛容になった私はふと考えました。「嘘も方便」とはいかに？ これによると嘘も時には有益な手段ということですか。そう言えば、嘘をついた後に本当のことを言って驚かせる。こんな嘘はその場を盛り上げる効果や、みんなの気持ちを和ませる効果がありますよね。幼い子どもの嘘に、大人は騙されたふりをする。子どもはそれを見て「嘘だよ！」と言って、自分の仕掛けが成功したことに大喜びをします。また、相手を傷つけない、不安にさせないためにつく嘘もあります。失恋の真相、病気の告知等々です。

「嘘も方便」が許されるのは、だれも傷つかないからではないでしょうか。むしろその場を和ませたり相手を労わったりしているからでしょう。

くもん子ども研究所から出版されている「親子のふれあい歳時記」5月号のエッセイ「嘘が開く世界」に柳田国男が書いた弟のエピソードが載っています。

『まだ小学校に入る前の弟が、母の言いつけで油揚げを買いに行った。においも色

もよいし、腹も減っていたので、弟は帰りがけについつい油揚げの端をかじってしまった。家に帰って「これはどうしたのだ」と問われたとき、「どこそこの角まで戻ると鼠が走ってきて食べた。」と答えた。母は「嘘はいけない。」ととがめるどころか大きな声で楽しそうに笑い、弟の「初めての言葉の冒険」を認めてやった。

嘘をつくにはそれ相当の知恵能力がいる。つじつまを合わせなければならないし、人と積極的にかかわるといふ外へ働きかける力もいる。だから、子どもが成長のある段階で嘘がつけるようになったということは、確かに「最初の知恵の冒険」なのだ。それをとがめて抑制するよりも、むしろみとめてやりその能力を伸ばす方がよい。ちなみに柳田の弟は泥棒にならず松岡映丘というすぐれた日本画家になった。『一坪内稔典』

「初めての言葉の冒険」、なんて素敵な言葉でしょう。そんな言葉が言える大人になりたいものです。子育てに大事なことに「一人ひとりの子どもをまるごと受け入れる」そんな大人の寛容があげられると思います。これは逆に子どもたちに教えられません。子どもは実に親に寛容です。全面的な信頼と揺るがない愛に裏付けされているのでしょうか。

子どもに対して勘違いで怒ったり、人と比べて怒ったり、はたまた虫の居所が悪いなんていうやつあたりで怒ったり。幼い無邪気な寝顔に「ごめんね」と思わず頬ずりしたこともありませんか。それでも子どもは父を母を寛容に受け入れてくれます。

ところで最初の食品偽装に戻ります。「最初の知恵の冒険」や「嘘も方便」の嘘はなぜ歓迎されるのでしょうか。そこには人との関係を円滑にする効果や思いやる心があるからです。ところが今回の食品偽装にはそれが微塵もありません。高級食材と信じて満足したり喜んだりした客を、傷つけたり陥れたりしたからです。そしてそれは詐欺であり犯罪なのです。

あまりにも次から次へと発覚する偽装の連鎖に「赤信号、皆で渡れば怖くない」なんてことにさせてはいけません。その罪は振り込め詐欺と同じです。人を欺き騙す手口は許せません。

今回の事件でも、保証する、弁済するという措置に対し、食べてもいけない買ってもいけないものを請求する者がでてくるかもしれないと危惧します。どちらもこれは人としての品性です。子どもたちは見えています。今こそ私たち大人が経済に振り回されない、品格高い振る舞いを子どもたちに見せなければなりません。

(理事長・立石美佐子)

中高生・青年のハローワーク～ハッピー10・10～のその後 「なぜ学ぶのか」を知りたい中学生

当協会がNPO発キャリア教育モデル事業「中高生・青年のハローワーク～ハッピー10・10～」(2007年)を実施してから、6年の歳月が経ちました。

この間、大阪教育大学附属池田中学校での出前授業をかわきりに、近畿圏の中高大学では学生を対象に、幼稚園と高校のPTA行事においては保護者を対象に、そして障がい児者の就労支援を行うNPO主催の研修会においては一般成人を対象に、出前授業(講義)を提供するという形で発展させてきました。また、当協会自身が参加者を募り講座を開講する形態も試みてきました。

■社会教育系子どもNPOによる"キャリア教育"

実践を積み重ねる中で、対象世代別プログラム(中学生、高校生、大学生、保護者)を開発し、図1のようなカリキュラム(案)が出来上がりました。

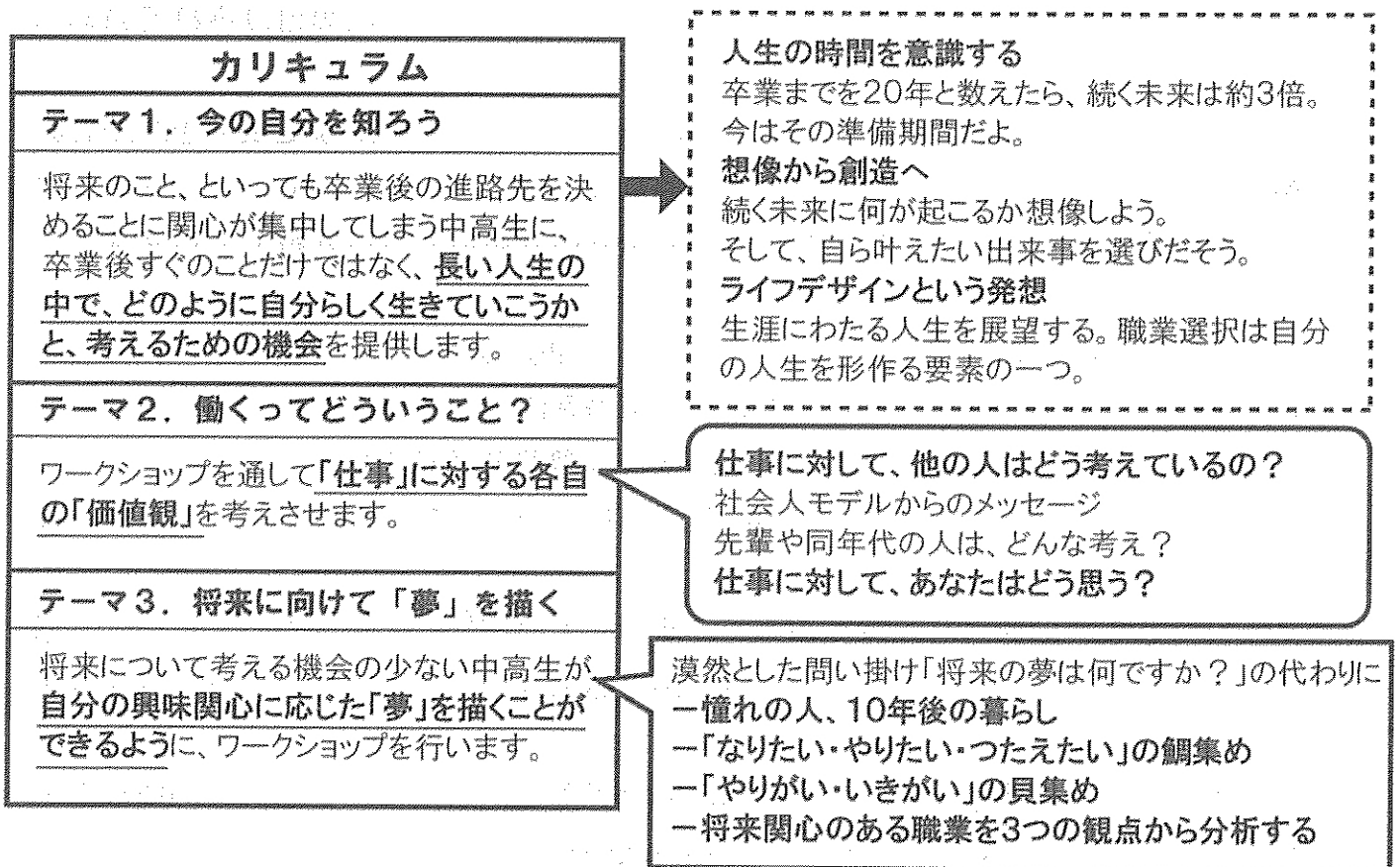


図1：北摂こども文化協会版「学生向けライフデザインメンタリング・カリキュラム(案)」

■「なぜ学ぶのか」を知りたい中学生

また中学生に対して「学ぶ事の意味」を伝えることが必要であると考えています。中学生は学校での勉強にどんな意味があるのかを見いだすことができず悩んでいます。

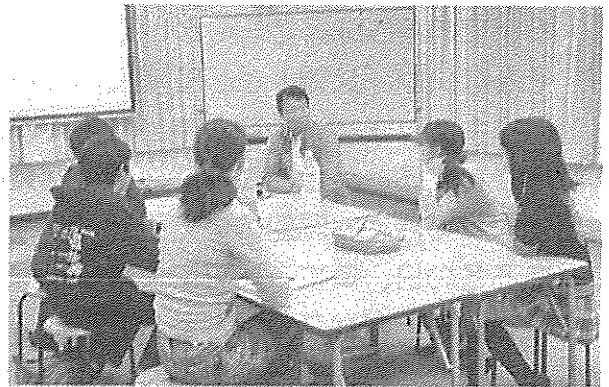
学習が進むにつれ内容はどんどん難しくなり一層の努力が必要になるのに、何のために勉強するのか分かっていない。学ぶ意欲が湧いてこない中、勉強をしなければならないというしんどさを抱えています。

そこで、中学生を対象としたプログラムにより、今の勉強が自分の将来とどうつながるのかについても伝えることにしました。

ここで、筆者と一緒に本事業を担当している岩井理事の感想文を紹介します。11月10日に行ったイベントを振り返っています。感想文から、学業の必要性を中学生にどう伝えているのか、その一端をご理解頂けるかと思えます。

■「中高生のハローワークを実施して」（執筆：当協会理事・岩井孝一）

今回は「なぜ働かないといけないのか？」をテーマに、働く意義や会社ではどんな仕事があるのかを解説し、そのために必要な力とそれらを身につけるための勉強はどんなものを伝えました。参加者は4人の中学1年生だったので、仕事に関する話よりもむしろ、なぜ勉強する必要があるかに焦点を合わせて話をしました。



「勉強は、将来働いていく上で必要になるので中高生のうちにしっかり取り組みましょう」とのメッセージに対して、皆さん素直に頷いていました。とくに心に残ったであろう学習科目は数学だったと思います。方程式や因数分解を習っても、そんなことは生活に必要がないと思っている中学生は多く、彼らもそんな考えを持っていたようです。数学は論理的思考力を養うために必要であり、具体的には、方程式を順序よく解いていく思考方法を身につけることによって、普段の生活においても物事を順序よく、効率よく片付ける能力のトレーニングとなっていることを理解して頂きました。

学習だけではなく課外授業も重要で、協調性やリーダーシップを身につけるために部活や文化祭に取り組むことも大事だと説きました。つまり、中高生活は全てが働く為に必要な力を身につけるトレーニングとなっていることに気づいて頂けたと思います。

参加者は少なかったですが、このような話を広く中高生に伝えることは、子ども達の学習意欲を高めるための一助になるだろうと思いました。

■「納得」が意欲を生む

当協会のプログラムに参加した中学生の多くが、「なぜ勉強するのか、その必要性が分かった」「これからは苦手な勉強もやってみようと思う」と感想を述べ、学習への意欲を高めます（講座終了後に実施するアンケートより）。（理事・立石麻衣子）

やまの育の日記 その17 ～気付いてみると～

長女5歳、長男2歳の相変わらず賑やかな我が家。5歳の長女は幼稚園の学年があがるにつれて、どんどん口が達者になり、かわいげがなくなってきた。無邪気だった頃の面影はなく、腹立たしい言動が多くなった。

「ちゃんと座って食べなさい。」→「ハイハイ。あっ、ハイは一回やったね～。」

「お父さんにも少しちょうだい。」→「お父さんお腹おっきいから食べていいと思う。」

「早く片付けなさい。」→「今やろうとしてました～。見ててください～。」

すぐ泣くくせに妙に生意気……。そこで最近思うのが、子どもの叱り方である。

教育番組や育児書では「感情的になってはいけません。」と紹介されているが、ふと自分の幼少期を振り返ってみると父の感情溢れる、感情漏れ漏れの叱り方を思い出す。

今までの育の日記でも紹介してきたように、父は超現実主義者で昔気質のお父さん。

そんな父が「父親」として現役バリバリの頃、一度怒らせるとそれはそれは恐ろしかった。普段はキャッチボールなど本当によく遊んでくれる父だが、筋が違うことやくだらない兄弟げんかをすると、途端に鬼に変貌。例えばこちらが風呂に入ってようがお構いなし、問答無用で入ってきて、湯船の中で張ったおされたこともあった。

ある冬の日、反抗を試みて失敗し、家から追い出されたことがあった。僕の住む地域は冬になると気温がかなり下がる。すぐに母か姉が助けしてくれると思いきや家の中は無人のように静まりかえり、誰も助けてくれる気配なし。

いつまで経っても入れてもらえず、当時飼っていた犬の小屋に入り寒さをしのいだ。(ちなみに本来の家主である柴犬チロは家のコタツでぬくぬくしていた。)

夜寝る時間にも厳格で、兄と遅くまで寝室で遊んでいると、リビングから稲妻のような足音が聞こえ、急いで布団に入り死んだふりをするものの、容赦なく竹定規で太ももをピシピシされたものである。

小学2年生の時、近所の電話ボックスのガラスを粉々に砕いてしまったことがあった。

電話ボックスのガラスは安全上、粉々に砕ける構造になっているが、その瞬間僕自身が砕かれてしまうんじゃないかと思った。

そんな幼少期を過ごした僕ではあるが、親となった今、娘と息子に対して我ながら寛容だと思っている。人様に迷惑をかけたり、危険なことをすればもちろんその場で注意はするが、あんまり激しく怒ったりはしない。その点でいうと嫁さんのほうがはるかに沸点が低く、子どもを叱っているように思う。たまに勇気をだして僕が嫁さんに意見する場合もある。

「もう少し落ち着いて言ってあげたらいいのに。」

→「うっさい。口はさまんでよし。」

「でもさ、むしろ逆効果な気が……」

→「こっちは長時間一緒におるねん。何回も同じことされたら言いたくもなるわな」

「……………」

→「それでもまだ意見するなら、いよいよ矛先変わってくるけどかまへん？」

僕は貝のようにひっそりと息を潜め、保身にはしる父を許しておくれと心の中で懺悔する。よく考えてみると子どもの叱り方というより、子どもと一緒に叱られてるなあと気付いてしまったが、これから先、子どもの成長とともに親として色々学んでいきたい。

おすすめの絵本

秋があっという間に行ってしまうと、急に寒くなりました。今年の冬は厳しいそうですね。暖かい部屋で、ゆったり絵本を楽しんでください。

「雪の上のなぞのあしあと」

あべ弘士 さく・え 福音館書店 かがくのとも

宿直をしている僕が見つけた謎の足跡の正体は果たして？動物たちが夜、どんな風に過ごしているのかも臨場感たっぷりに教えてくれます。旭山動物園で飼育員をされていた経験がある筆者ならではのです。

「おとうさんを まって」

片山令子作 ススキコージ絵 福音館書店 こどものとも

遠くに働きに出ているお父さんを犬のワンダと一緒にずっと待っている男の子のお話。父子の情愛が伝わってきます。雪景色の絵が素晴らしい。

「五助じいさんのきつね」

馬場のほる 作 こくま社

一人暮らしの五助じいさんのところにやってきた狐のコンコン。化けられるのは、湯たんぽだけ。笑えてほのぼのと楽しめる作品。

「きつね森の山男」

馬場のほる 作 こくま社

きつねの森にやってきた山男。寒がり殿様が狐の毛皮を欲しがるとは知らず、毛皮なんてなくて、風呂吹き大根は好きですか？毛皮なんてなくて、熱い大根をふうふう食べれば温まりますよね。

「アンナの赤いオーバー」

ハトリエット・ジーフェルト文 アンナ・ローベル絵
松川真弓訳 評論社

第二次大戦後の実話です。暗い色調の絵にアンナの赤いオーバーが印象的です。大切な品物を次々手放しながら、一年をかけて作られる赤いオーバー。物質的には恵まれている現在だからこそ読みたい。

「はたらきもののじょせつしゃケイティー」

バージニア・リー・ハートン文 絵 石井桃子訳 福音館書店

大雪が降って街はすっかり雪に埋もれてしまいました。除雪車ケイティーの出番です。ひたすら黙々と仕事をする、ケイティーは本当にかっこいい。地図でケイティーの通った道が確認できます。1978年の出版。愛され続けるロングセラーです。

ガラクタ集めて遊んだな

鹿児島の子ども劇場が「ティーンズ」という事を始めてもう10年近くなります。

「ティーンズ」とは、中・高校生が自分たちで作品を創って発表するのですが、学芸会の域を超えた作品作りをということで、各劇場にプロの劇団員を貼り付けます。風の子九州や人形劇団むすび座や人形劇団クラルテの劇団員が中・高校生とつきあって、劇場の青年、つまり大学生たちが側面からサポートしながら作品を創り、ちゃんと入場料1,000円を取って見せるという仕組みです。

私も数年前からこの作品創りに関わっているのですが、今年は二つの劇場を受け持ちました。一つの劇場は一人の子のいじめられた体験を自分たちでシナリオにし上演しました。劇のラストで、「また会えるかな」「ここで出会えたんだもの、また会えるよ」「人はそれを希望的観測という」「希望……かあ、輝いてる言葉だね」と結んで終わるのです。

もう一つはインターネットやYouTubeを駆使して大道芸や雑技に挑戦して全体を構成していました。だれにも習わず見事に技を習得していきます。この4月に集まって11月に発表でした。

この素晴らしい仕組みも少子化という波が押し寄せていて、次年度の参加者確保のためにティーンズの年齢にならない子どもたちを今からその気にさせてよと言われました。

工藤直子の「のはらうた」を読み聞かせ、それを表現しようと子どもたちに提案したらこれがめちゃ面白かったのです。段ボールやビニール袋や、モップやらを自分たちで集めて来てライオンになり、クジラやイルカにもなっていました。

そこで思い出しました。私も子どもの頃はいつもこんな事をして遊んでいました。今のようにおもちゃがなかったから、みんなガラクタを集めて作っていました。

そうして創造することを鍛えられていました。今の子どもたちだってすごい力を持っています。ただ発揮する場所や更に磨きをかけるチャンスがないのだなと考えさせられました。



工藤直子作「てつがくのライオン」の一場面

(会員・尾崎望)

(人形劇団クラルテ・松本則子)

イベント・行事案内



第13回北摂太鼓集団フェスティバル

(日 時) 2014年3月16日(日) 14:00 開演 (13:30 開場)
(場 所) 豊能町立ユーベルホール

とんと焼き開催!

天高く燃え立つ校の影に、新年への願いを込めて!

西地区 2014年1月18日(土) 10時開会 ※雨天中止
豊能町立東ときわ台小学校グラウンド

東地区 2014年1月19日(日) 10時開会 ※雨天決行
豊能町立スポーツ広場

みかんや針金を取り除いた状態でしめ縄をご持参ください!

第13回 大阪高校生 演劇フェスティバル in 池田

2014年1月25日(土) 入場無料

池田市民文化会館小ホール
10時開演 (9時半開場)

- ★大阪府立箕面高等学校
「ewriter ー(*・ω・*)ー ~引いたり押したりスライドさせたり~neo!」
- ★長尾谷高等学校
「二人っきりの一人ぼっち」
- ★追手門学院大手前高等学校
「です。」
- ★東大阪大学敬愛高等学校
「未定」
- ★金蘭会高等学校
「Forever ケイ -1995.1.17阪神大震災メモリアル作品-」

☆ひと山まるごとフレイパーク☆ 体験会 in 豊能町木代

2014年2月22日(土) 午前10時~午後1時

大自然のふとこころで思いっきり遊びほうけよう!
自分の居場所がきっと見つかるはず...
親子対象の野外活動現地体験会です。
参加費は無料です。ぜひご参加ください!

興味のある方は、当協会「ひと山事務局」
までお気軽にお問い合わせください!

お問い合わせ・お申し込みはこちらまで

●北摂子ども文化協会事務局

TEL:072-761-9245

FAX:072-761-9244

E-mail:hokusetsukodomo@wombat.zaq.ne.jp

会員随時募集中!!

「もっと自分らしく」を合言葉に、北摂子ども文化協会が活動しています。

年会費:◆正会員(総会議決権あり)10,000円

◆賛助会員 個人 一口 3,000円

団体 一口 5,000円

法人 一口 10,000円

編集後記

12月です。師走です。お師匠さまが東西に馳せまわるほど忙しい月です。子どもの頃、大晦日、お正月と本当にわくわくしました。スーパーの年末年始休業に備え、お菓子を兄弟で買い出しに行ったり、早くお年玉を使いたくてお店が開くのをお待ちにしたり。

今やすっかり社会も変わり、昔感じた正月らしさは薄まったものの、子どもの頃からずっと楽しみにしていることがあります。それは初詣のくじ引きです。普段占いの類いは全く興味のない人間ですが、このくじだけはやめられません。

今年もちろん200円也で一年間の安心を買ったところ結果は半凶。……半凶? みなさん知っています? (山)